

# 柘木県現代俳句協会報

No. 166



第一六六号

発行所

〒三三三〇〇一六  
小山市扶桑二一八―一〇 中村方

柘木県現代俳句協会

発行人

和田 浩一

編集人

松本 登子

令和四年九月二十日発行

## 第十七回 柘木県現代俳句協会通信句会

### 令和四年度結果

令和四年九月十日

#### \*特選賞

和田浩一 選

光東ねる噴水へ押す乳母車 中井 洋子

大嶋邦子 選

千年の桜と同じ空気吸う 中村 克子

中井洋子 選

歩く人草を刈る人走る人 斎藤 絢子

石倉夏生 選

逃げ水の先はガラスの動物園

山野井朝香

速水峰邨 選

徘徊の母の手にある犬ふぐり

須藤火珠男 選

統領は悪魔われらは四月馬鹿

中村克子 選

実南天想いそれぞれ墓仕舞う

須藤 正之

松本 登子

中村 國司

#### \*最高得点句

徘徊の母の手にある犬ふぐり

松本 登子

#### \*その他の作品 (順不同)

試歩百歩八十路の白いスニーカー

和田 浩一

髪切つて五月の風にふはと乗る

大嶋 邦子

梅雨寒や圧力鍋を昂ぶらす 石倉 夏生

ジュラ白亜蜥蜴尾を切る由もなし

速水 峰邨

螢乱舞他界はありと吾も信ず

須藤火珠男

靴紐を通す穴あり雲の峰

大淵 久幸

梅雨蝶の互するを嫌ふ白さかな 日向野初枝

てのひらの鋭利な石器さえずれり  
 古民家の手づくりランチ花菖蒲  
 遠雷や世界の地図に呻き声  
 先頭は金魚の袋点しゆく  
 止まらない象の足踏み花の冷え  
 骸骨のけらけら笑ふ臃かな  
 夏みかんむく老斑の手の力  
 反抗期瞬きもせず春の星  
 愛犬の介護を終えて夏の月  
 メタセコイア得体の知れぬ春落葉  
 駅頭に溢れ出す白夕薄暑  
 ひっそりと朽ちていく家棕櫚の花  
 追憶の糸口として麦の笛  
 忌の日の余白に虹が参列す  
 甚平を着てよき父となる日かな  
 罪犯す心地して十葉を刈る  
 雨上がる歩き出したる杖に夏  
 延命拒み夕焼を帰りけり  
 あちこちの田が動き出し桐の花  
 薔薇の雨スマホに浮かぶ友の遺句  
 のどけしやゴリラの歯茎真正面  
 嫌なこと忘れ去るまで草むしる  
 林檎の香充ちる上りの列車かな  
 走り根を風の甘噛み夏来る

水口 圭子  
 鈴木良四郎  
 幸田慶三郎  
 大竹 照子  
 小林たけし  
 齋藤 稔  
 森本 金一  
 佐藤 美穂  
 堀 秀子  
 矢野 洋一  
 遊座 純子  
 池澤 光子  
 戸田富美子  
 神山 姫余  
 増田 徹  
 増山 ちさ  
 宇津木玲華  
 和田 璋子  
 高木 洋子  
 根本菜穂子  
 松本 幸子  
 秋元 幸治  
 柳 浩二  
 石川 和子

耳底みみに同胞のこえ花浄土  
 リハビリの歩数増へたり梅熟れて  
 掌に飴の地藏の裾に蟻地獄  
 血を吸いし薙蚊己を持て余す  
 疫病の世にどくだみの花十字  
 妹は今もいもうと桐の花  
 春野菜どさつと置いて友の黙  
 傘さしかける六月の胸の内  
 肝腎なことには触れず夜盗虫  
 追い越され六根清浄山登り  
 かかとかから春の土踏む三ツ峠  
 六月は淋しい顔でやってくる  
 白日傘悔悟のように立ち尽くす  
 万緑や歴史探訪掘り下げて  
 ポストマンとなりインカの春駈ける  
 どなたでもどうぞ真昼の半仙戯  
 羽抜鳥加齢のせいと言はれけり  
 AIも花鳥風月日永かな  
 会ひたくてあの螢にもあなたにも  
 スマートホン繰る指先や青嵐  
 女子高裏額あじさいは多弁  
 外来種はびこる畑や草を取る  
 幼な子の髪結う嫁の洗い髪  
 枇杷の実落つ光のなかへ落つ

小杉栄美子  
 西塚とみ子  
 王 騎  
 沼田 満  
 畠山 嘉子  
 相田 勝子  
 横井 康子  
 松本 廉子  
 齋藤 雅子  
 橋本 尚子  
 滝沢 良恵  
 北島 洋子  
 佐藤紀生子  
 五十嵐すず  
 大久保正義  
 橘川 芳子  
 青木 廣子  
 須田 初江  
 本間 睦美  
 清水 智子  
 佐々木輝美  
 篠原 幸子  
 齋藤 十明  
 栃木喜美子

栃木県現代俳句協会創立35周年記念

# 栃木俳句フェスティバル 開催のお知らせ

当協会の創立35周年を記念して  
栃木県の現代俳句の向上発展のため  
栃木俳句フェスティバルを開催致します。  
俳句を愛し、懸命に学ぶ仲間の集いです。  
奮ってご参加ください。

- ◆期 日 令和4年10月16日(日) 午前10時30分受付開始
- ◆開 会 12時30分
- ◆会 場 ホテルサンルート栃木 (栃木市)  
☎ (0282) 24-5858
- ◆講 演 佐怒賀正美先生 (現代俳句協会副幹事長)
- ◆席 題 1句 (当日出題、投句締切: 11時30分)
- ◆当日会費 500円

主催：栃木県現代俳句協会  
後援：現代俳句協会

# 第三十回色紙展のお知らせ

◇日時 十一月十九日(土)～十一月二十日(日)

午前九時半集合

◇会場 とちぎ岩下の新生姜ホール(栃木文化会館)

一階大会議室 (栃木市旭町)

◇会員コーナー 『色紙や短冊』一人二点まで

◇特別コーナー 『功労者の面影』『追想』

\*はがきで一句コーナー

※非参加者のために発表の機会を設けております。多数のご参加をお待ちしております。色紙展の参加者もふるってお送りください。

※詳しくは実施要綱を参照

## 新入会員紹介

佐藤 美穂(宇都宮市)

推薦者 後藤 章

畳目をながめ手枕ふうちそう  
たえまなく螺髪を洗ふゆだちな  
命毛の穂先のしなり緑立つ

神山 姫余(小山市)

広島県より転入

ひつじ雲冥府がのぞく午睡の書  
唯物論背おいて夏の遺失物  
宇宙回廊コップの底の花火かな

## 【お知らせ】

○龍 太一

現代俳句五月号ブックエリア(2)に、句集『HIGH・QUALITY』～俳句の自在な達人若井新一くが掲載されました。

## ◆訃報

星野治子さんが、令和四年七月二十五日逝去されました。享年七十八。  
牛丸幸彦さんが、令和四年八月七日逝去されました。享年七十九。  
謹んでお悔やみ申し上げます。

## ◆訂正

○訂正してお詫びいたします。

165号3頁上段・4頁中段

正(写真説明)

キョクトウとちぎ蔵の街楽習館

正 足早に秋医療者に木に草に

※次回167号の原稿締切りは

10月25日です。